令和元年度　授業改善推進プラン

担当【　３年　】　　武蔵野市立第一小学校

児童の実態と学力向上のための全体計画を踏まえた授業改善の方向性	各教科における指導改善のための具体的な方策 （「主体的・対話的で深い学び」の視点から）
《学力向上を図るための全体計画から》 ① 指導方法や指導内容の工夫 ② 評価の工夫 ③ 校内研修・校内研究の工夫 ④ その他の工夫	① 指導方法や指導内容の工夫 ・学習の目的や必然性を明確にし、児童の学習意欲を喚起する。 ・学習形態にペアトーク、話し合い活動を積極的に取り入れることで、内言語を外言語化する機会を増やし、対話的に学べるような場を設定する。 ・音読、計算などの基礎事項を繰り返し反復しながら、習得した知識や技能の定着を図る。
《児童の実態》 何事にも意欲をもって取り組むことができる。また友達との関わり方も豊かで、休憩時だけでなく学習時も多くの仲間と関わることができる力をもっている。新しいことや体験することを好み、特に理科や社会などの学習に興味関心が高い。体験活動を大切にしていく。 一方で、１つのことに集中して学習に取り組むことが課題になっている。１つの課題に対して粘り強く最後まで取り組む力をつけていく必要がある。また、国語の漢字の学習などの基礎基本の学力については定着度の差がある。また、算数において、計算問題の理解が進んでいる一方で、単位換算や文章題を正確に読み取ることなどが正確にできない児童がいることも取り組むべき課題である。	② 評価の工夫 ・学年間や専科教員（特に算数）と評価の規準を共有化することで、個々の児童の学習理解度を的確に把握できるようにする。 ・児童間で互いの良かったところを認める時間を取り、学習意欲を高めていくようにする。その際に評価する観点を教師と児童で共有ができるようにする。 ③ 校内研修・校内研究の工夫 ・校内研究では「コミュニケーション」をテーマに行っているが、児童が主体的・対話的に関わることができるよう、児童同士の関わりやスピーチをする促す場面を多く設定し、コミュニケーションの量を多く取れるようにする。 ・友だちと関わり合って学ぶ時間を設定し、授業でインプットしたことを友だちに対してアウトプットしていく活動を通して、理解の定着をより深くできるようにする。 ④ その他の工夫 ・日常にある、漢字や時刻などを見付ける活動を日々行うことで、記憶のリマインドをかけ記憶定着を図る。プリント学習や家庭学習を活用し、学習内容の定着を図る。 ・２学期・３学期も継続して地図に触れる活動に親しんでいき、校外学習に行ったときなどに体験と知識を結び付けていく。